

# 令和 3 年度 高等学校教育課程研修会

## 共 通 資 料

### 研修Ⅰ オンデマンド研修動画

－職業教育を主とする専門学科 農業・工業・商業編－  
第1章 高校 【農業・工業・商業】 共通

#### I 専門学科における指導と評価の一体化について

- 1 学習評価の充実を目指して
- 2 工業科の目標と評価の観点及びその趣旨
- 3 産業教育の資質・能力を育成する学びの過程のイメージ
- 4 指導と評価のポイント【評価規準と見取り】
- 5 観点別学習状況の評価と評定の役割
- 6 観点別学習状況の評定への総括
- 7 学習指導と評価計画

#### II 各教科・科目に関する事例について

- 8 〔各科の項目 1－(1)〕 授業実践と評価活動
- 9 〔各科の項目 1－(2)〕 評価の観点に適した評価方法
- 10 〔各科の項目 1－(3)〕 観点別学習状況の評価方法

#### III 参考資料

- ① 年間指導計画
- ② 年間指導評価計画
- ③ 観点別学習状況の評価の総括

教育庁県立学校教育課  
県立総合教育センター

# 高校【職業教育を主とする専門学科】－共通－

## 1 学習評価の充実を目指して

### (1) 内容のまとまり〔指導項目〕ごとの評価規準

各学校は、学習評価を行う際の評価規準を作成する。「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて、各学校の実態を考慮し、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した評価規準の作成が大切である。

### (2) 観点ごとの評価規準

観点別学習状況の評価とは、学校における生徒の学習状況を複数の観点から、それぞれの観点ごとに分析的に捉える評価のことである。観点ごとの評価規準は、観点別学習状況の評価を的確に行うため、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころを表現したものである。

### (3) 組織的・計画的な学習評価

学習評価の取り組みについては、教師によって学習評価の方針が異なり、生徒の学習改善や教師の指導改善につながらないことがないよう、教員個人ではなく、学校全体で取り組むことが重要である。

## 2 工業科の目標と評価の観点及びその趣旨

### (1) 工業科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との対応関係について

評価規準は、各学校の実態(生徒の実情)に応じて目標に準拠した評価を行うため、「工業科の目標」を踏まえた「評価の観点及びその趣旨」を作成する。また、「教科の目標と評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえ、科目の目標に対する「科目の評価の観点の趣旨」を作成することが必要である。

#### ① 工業科の目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
工業の各分野について体系的・系統的に <u>理解する</u> とともに、関連する技術を <u>身に付けるようにする</u> 。	工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を <u>養う</u> 。	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を <u>養う</u> 。

#### ② 教科の目標と評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業の各分野について体系的・系統的に <u>理解している</u> とともに、関連する技術を <u>身に付けている</u> 。	工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を <u>身に付けている</u> 。	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を <u>身に付けている</u> 。

#### ③ 科目の目標と評価の観点の趣旨

趣旨	科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」は各学校等において作成
----	--------------------------------

### (2) 内容のまとまりごとの評価規準の作成

評価規準の作成等は、学習指導要領に示す各教科等の「第2款 各科目」における各科目の「1 目標」及び「2 内容」の項目等を、そのまとまりごとに細分化したり整理したりしたものである。

専門教科に属する全ての科目の「2 内容」は〔指導項目〕として「(1), (2)」などの大項目や「ア、イ」などの小項目を示し、柱書では、「1に示す資質・能力を身に付けることができるよう、次の〔指導項目〕を指導する」と示した。

これは、〔指導項目〕として示す学習内容の指導を通じて、目標において三つの柱に整理した資質・能力を身に付けさせることを明確にしている。

科目：工業技術基礎  
内容

(1) 人と技術と環境

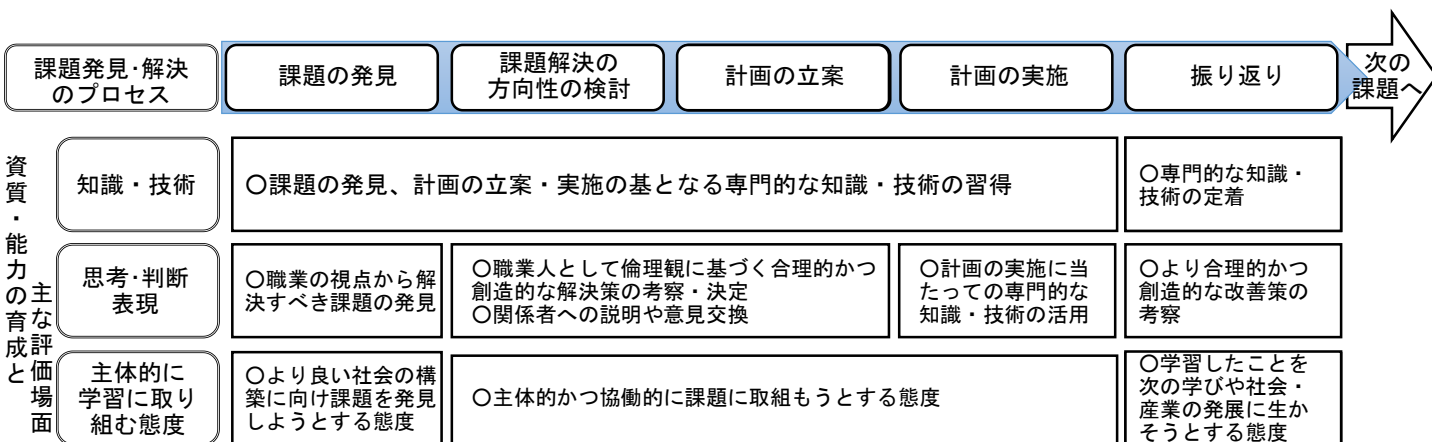
ア 人と技術

イ 技術者の使命と責任

ウ 環境と技術

※指導項目ごとに三つの柱が示され、資質・能力を明確にしている。

### 3 産業教育の資質・能力を育成する学びの過程のイメージ



### 4 指導と評価のポイント【評価規準と見取り】

#### (1) 指導（授業実践）のポイント【評価規準】

産業教育においては三つの柱に沿った資質・能力を育成するため、各教科に関連する職業における具体的な課題を踏まえた課題解決的な学習（「3 資質・能力を育成する学びの過程」）の充実が求められ、学習内容においては「育成を目指す資質・能力が生徒に身に付いたかを判断する具体的な『評価規準』の設定が大切である。

#### (2) 評価（評価活動）のポイント【表れと見取り】

学習評価は、「子どもの学習活動における具体的な『評価規準（表れ）』を教師が『見取る』ことが大切である。観点別学習状況の評価において、生徒の「表れ」を、教師が「見取り」、生徒の「学習改善」につなげることが重要である。

## 5 観点別学習状況の評価と評定の役割

各教科の評価については、学習状況を分析的に捉える観点別学習状況の評価と、これらを総括的に捉える評定の両方について、学習指導要領に定める「目標に準拠した評価」として実施するものとされており、観点別学習状況の評価や評定には示しきれない生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況については、個人内評価として実施するものとされています。

### 【評価の決定方法は、各学校で定める】

観点別学習状況の評価をどのように評定に総括するかについては、従来より、「評定の決定方法は、各学校で定める」とされています。各学校の状況に応じた「評価・評定」に関する共通理解を図っておくことが重要です。

### (1) 「観点別学習状況の評価」と「評定」 ～指導と評価の一体化の観点～

#### ① 観点別学習状況の評価

各教科の学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」は、生徒がそれぞれの教科での学習において、どの観点で望ましい学習状況が認められ、どの観点に課題が認められるかを明らかにすることにより、具体的な学習や指導の改善に生かすことを可能とするものであり、評定を行う場合の基本的な要素でもあります。

#### ② 評定

各教科の観点別学習状況の評価を総括的に捉える「評定」は、生徒がどの教科の学習に望ましい学習状況が認められ、どの教科の学習に課題が認められるのかを明らかにすることにより、教育課程全体を見渡した学習状況の把握と指導や学習の改善に生かすことを可能とします。

### (2) 評価規準（規準：質的な評価「ABC」）

A：規準を十分に満たす、上限は設けない

B：規準

C：Bに実現するような具体的な手立てを行う

### 【3段階（ABC）】

観点別学習状況の評価やそれに基づく学習や指導の改善の更なる定着につなげる観点からも、評価の段階及び表示の方法については、3段階（ABC）とすることが適当であるとされています。

## 6 観点別学習状況の評定への総括

観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をABCの組み合わせ、又は、ABCを数値で表したものに基づいて総括し、その結果を5段階で表します。

評定例	観点別学習状況の評価			評 定	備 考
組 み 合 わ せ	知識・技術	思考・判断・表現	主体的な態度		
	A	A	A	5または4	これらの例は参考であり、各観点のＡＢＣの組み合わせを各学校において決めておく必要がある。
	B	B	B	3	
	C	C	C	2または1	
	C	C	A	※ばらつきの原因を検討し、生徒の学習や状況、教師の指導の改善を図るなど速やかな対応が求められます。	
	A	A	C		

### 【評価における教師・生徒・保護者の共通理解】

各学校では、観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切です。

科目等の単元における観点別学習状況の評価は、「年間指導計画」と「年間指導評価計画」を基に計画的・組織的に実施することが重要である。

学習指導要領の目標や内容を踏まえた「年間指導計画」、内容のまとまりごとに観点別学習状況の評価を行う「年間指導評価計画」に沿って学習指導と評価計画を進めていくことで、「指導を評価」に「評価を指導」に還元し、更に循環させることで、指導と評価の一体化を図ることが大切である。

## 指導と評価の流れ

① 年間指導計画を作成

② 年間指導評価計画の作成

③ 単元の目標を作成

④ 単元の評価規準を作成

⑤ 指導と評価の計画を作成【見直し】

⑥ 「授業の実施」【生徒の学習改善】

⑦ 観点ごとに総括【教師の指導改善】

⑧ 学科・担当教師間での評価の共通理解

⑨ 評定への総括

## 解説・留意点

主に「年間指導計画」「年間指導評価計画」

- ① 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
  - ② 学校及び学科の目標、育成する生徒像を踏まえ、観点ごとの評価計画を作成する。
- 参照: 1 学習評価の充実を目指して  
参照: 2 科の目標と評価の観点及びその趣旨(1)

主に「学習指導案」

- ① 「年間指導計画」「年間指導評価計画」等を踏まえ、単元目標(学習の目的)を作成する。
  - ② 生徒の実態、前題材までの学習状況を踏まえ、単元(観点)の評価規準を作成する。
- 参照: 2 科の目標と評価の観点及びその趣旨(2)  
参照: 3 産業教育の資質・能力を育成する過程

- ③ ③と④を踏まえた評価規準における具体的な評価場面や評価方法等を作成する。
  - 参照: 4 指導と評価のポイント  
参照: 8 授業実践と評価活動  
参照: 9 評価の観点に適した評価方法  
参照: 10 観点別学習状況の評価方法
  - ④ 「⑥『授業の実施』」では、評価規準に沿って「生徒の学習改善につなげる『指導に生かす評価』(形成的評価)」を行う。
  - ⑤ 「⑦『観点ごとの総括』」で授業を振り返り、『教師の指導改善』につなげる。
- ※⑤～⑦を繰り返す、指導と評価における教育活動の質を向上させることが大切である。

- ⑥ 単元などのまとまりごとに、集めた評価資料(成果物やワークシート、ループリック等)やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価を行う。
  - ⑦ 評価に関しては、学科や担当教師間で共有することで評価の偏りをなくし、学校全体で組織的に学習評価の改善につなげる。
- 参照: 5 観点別学習状況の評価と評定の役割  
参照: 6 観点別学習状況の評定への総括

科目等の観点別学習状況の評価の総括である評定は、観点別学習状況の評価を基に、単元や時間(学期、年度末)のまとまりなどで実施する。観点別学習状況の評価を中心とした⑧の振り返り及び、総括の評定⑨を振り返り、年間指導計画①や年間指導評価計画②を見直し、指導と評価の質(妥当性や信頼性)を向上させることが重要である。

# 高校【職業教育を主とする専門学科】－各科－

## Ⅲ 各教科・科目に関する事例について

### 8 授業実践と評価活動

科 目：工業技術基礎

指導項目： (1) 人と技術と環境  
ア 人と技術  
イ 技術者の使命と責任  
ウ 環境と技術

指導項目を1つのまとまりとして、指導項目のねらい(目標)を実現するため、3観点の事項が身に付けることができるよう指導計画(評価規準・評価計画)を行う。

単元の指導計画(評価規準・評価計画)：3単位×35週＝105時間

「評価の観点」と「評価資料・評価方法」を並べることで、指導計画を明確にする。

回	単元	学習の目標 【指導上の留意点】	評価の観点			評価資料 評価方法
			知	思	態	
1	ア 人と技術	○人と技術の関わりについて、工業に関する各学科に関連する職種を中心に産業社会、職業生活、産業技術などを取り上げ、工業に関する職種や役割について幅広く関連付けて具体的に理解している。 ○工業の各分野に関する職業資格及び知的財産権について理解している。	○			◎ワークシート〔総括的評価〕 (記録に残す評価) ワークシートは意図を明確に！
2	イ 技術者の使命と責任	○安全な製品の製作や構造物の設計・施工、法令遵守など、工業に携わる者としての使命と責任について、調査や研究を通して具体的に理解している。		○		◎行動観察〔形成的評価〕 (指導に生かす評価)
3	ウ 環境と技術	○工業材料のリサイクルなどの身近な事例を取り上げ、工業技術が地球環境の保全に果たしている意義や役割、必要性について具体的に理解している。		○		◎ワークシート〔形成的評価〕 (指導に生かす評価) ◎グループ発表〔形成的評価〕 (指導に生かす評価) ◎ワークシート〔形成的評価〕 (指導に生かす評価) ◎グループ発表〔総括的評価〕 (記録に残す評価)

#### ○評価の観点

単元や指導項目をまとまりとして、指導のねらいを踏まえて評価の観点の計画を行う。

#### ○評価資料と評価方法

日頃の授業における評価方法は、行動観察などを中心とした「形成的評価」を中心に行い、教師の指導を改善や生徒を伸ばすために行う評価を中心に取り組む。単元や指導項目などの節目にワークシートやグループ発表、テスト等を用いた「総括的評価」を行うことで記録を残し、学習の判定(評定)に活用する。

◎最終的な学習評価は、教職員間の共通理解のもと評価を行う必要がある。

### 9 評価の観点に適した評価方法

観 点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト等</li> <li>ワークシート</li> <li>ルーブリック</li> <li>成果物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発問への応答</li> <li>ワークシート</li> <li>ノート</li> <li>作業計画や作業工程</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルーブリック</li> <li>ポートフォリオ</li> <li>課題等に取り組む態度</li> <li>課題解決に向けた発言</li> </ul>



観点別学習状況の評価とは、学習指導要領に示す目標に照らして、生徒の学習状況を分析的に捉えて、その実現状況がどのようなものであるかを観点ごとに評価する「目標に準拠した評価」を行います。

### (1) 「知識・技術」の評価の観点

「知識・技術」の評価は、各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既得の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものです。

#### 【具体的な評価方法】

例えばペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図る等が考えられる。また、生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくこと等も考えられます。

### (2) 「思考・判断・表現」の評価の観点

「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものです。

【知識及び技能を活用して課題を解決する】過程は、大きく分類して次の三つが示されており、「思考力、判断力、表現力等」を育成していく上では、以下の学習過程の違いに留意することが重要です。

- ① 物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予想しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- ② 精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話による表現や、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
- ③ 思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

#### 【具体的な評価方法】

ペーパーテストのみならず、論述やレポート作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられます。

### (3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の観点

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、単に継続的な行動や積極的な発言等を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではなく、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る評価の趣旨に照らして、『知識及び技能を獲得』したり、『思考力、判断力、表現力等を身に付けたりする』ために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要です。

#### 【主体的に学習に取り組む態度に係る二つの側面の評価】

各教科の評価の趣旨(題材の目標や学習内容)に照らし、次の二つの側面の評価が求められています。

- ① 粘り強い取り組みを行おうとする側面  
例：知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取り組み
- ② 自らの学習を調整しようとする側面  
例：「①」の粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整する取り組み

※この評価は、学習の調整が「適切に行われているか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得に結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められています。

#### 【具体的な評価方法と「主体的・対話的で深い学び」の視点】

ノートやレポート等の記述、授業中の発言、自らの理解の振り返り、教師による行動観察や、生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることが考えられます。その際、各教科等の特質に応じて、生徒の発達段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえ、評価を行う必要があります。

#### 【評価の実際】

この趣旨の評価では、例えば、①の「粘り強い取組を行おうとする側面」が認められたとしても、②の「自らの学習を調整しようとしている側面」が認められない場合には、「主体的に学習に取り組む態度」の評価としては、基本的に「十分満足できる(A)」とは評価されないことになります。これは、単に学習に対する粘り強さや積極性といった生徒の取組みのみを承認・肯定するだけではなく、学習改善に向かって自らの学習を調整しようとしているかを含めて評価することが必要だからです。

注意！

### (4) 【単元末や学期末、学年末の3段階の評価について】

仮に、3観点の評価の結果が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の各観点について、「CCA」や「AAC」といったばらつきのあるものとなった場合には、生徒の実態や教師の授業の在り方などそのばらつきの原因を検討し、必要に応じて、生徒の支援を行い、生徒の学習や教師の指導の改善を図るなど速やかな対応が求められます。

改善！

『工業技術基礎』 年間指導計画

科目名	単位数	対象学年	必修・選択	対称学科	授業形態
工業技術基礎	3	1	必修	電気科	座学・実技

科目目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
------	--

3 観点	比重	育成する資質・能力	評価方法・評価
知識・技術	1	(1) 工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・定期テスト等 ・ワークシート ・ルーブリック ・成果物
思考・判断・表現	1	(2) 工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	・発問への応答 ・ノート、ワークシート等 ・作業計画や作業工程 ・行動観察（態度や発言）
主体的に学習に取り組む態度	1	(3) 工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	・ルーブリック ・ポートフォリオ ・行動観察（態度や発言）

月	週	学習内容	評価計画			月	週	学習内容	評価計画		
			知	思	態				知	思	態
4	2	0. オリエンテーション (1) 施設見学 (2) 授業（実習）の説明 1. 人と技術と環境 ⑦ 人と技術		○ ○	○ ○	10	4	④ ⑤ ⑥ ⑦ 「①」のまとめ①	○ ○ ○	○	○
5	4	④ 技術者の使命と責任 ⑦ 環境と技術 ◎「1」のまとめ 2. 加工技術 ⑦形態を変化させる加工 ①	○	○ ○	○	11	4	⑧ ⑨ ⑩ ⑪	○ ○ ○ ○		
6	4	② ③ ④ ⑤	○ ○ ○ ○			12	3	⑫ ⑬ 「④」のまとめ② ⑭ 「2」の振り返り	○	○ ○	○ ○
7	2	⑥ 「⑦」のまとめ ⑦ 単元テスト		○ ○	○ ○	1	3	3. 生産の仕組み ⑦ 生産工程 ① ② ③ 「ア」のまとめ	○ ○	○	○
8	0					2	4	④ 分析と測定技術 ① ② ③ 「④」のまとめ ④ 「3」の振り返り	○ ○	○ ○	○ ○
9	4	2. 加工技術 ④ 質を変化させる加工 ① ② ③ ④	○ ○ ○	○	○	3	3	4. 「科目」のまとめ ① 学んだ技術 ② 将来に生かす技術		○ ○	○
小計	16		08	07	06	合計	36		20	15	13



『工業技術基礎』 年間指導評価計画

単元	評価項目	内 容	評価方法・評定		
			形成的評価	総括的評価	
オリエンテーション	〇〇分野に関わる技術により、工業の諸課題を適切に解決するための基礎的な力を身に付けることを理解している				
	知識技術	・各実習装置における役割を理解している ・工業の意義や役割を理解し、各装置と関連する技術を身に付けている	・行動観察 ・発問の応答		
	思考判断表現	・各実習装置における安全な取扱いを理解している ・工業製品の生産について、解決する力を身に付けている	・行動観察 ・発問の応答		
	主体的態度	・工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている ・環境への配慮や安全性を優先した工業製品の生産の方法を自ら学ぶ態度を身に付ようとしている	・行動観察 ・レポート		
第1章 人と技術と環境	ア 人と技術      イ 技術者の使命と責任      ウ 環境と技術				
	知識技術	① 人と技術と環境との関わりについて工業を取り巻く状況の変化を踏まえて理解しているとともに、工業に携わる者として必要な基礎的な技術を身に付けている。			
	思考判断表現	② 工業技術を取り巻く状況に着目して、人と技術と環境との関わりに関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。			
	主体的態度	③ 人と技術と環境との関わりなどについて自ら学び、工業の発展を図ることに主体的かつ協働的に <b>取り組もうとしている。</b>			
第2章 加工技術	ア 形態を変化させる加工【〇〇加工、〇〇加工】      イ 質を変化させる加工【〇〇加工、〇〇加工、〇〇加工】				
	知識技術	① 加工技術について工具や器具の扱い方や機械や装置類の活用を踏まえて理解しているとともに、工業に携わる者として必要な基礎的な技術を身に付けている。			
	思考判断表現	② 材料の形態や質が変化することに着目して、加工技術に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。			
	主体的態度	③ 加工技術について自ら学び、工業の発展を図ることに主体的かつ協働的に <b>取り組もうとしている。</b>			
第3章 生産の仕組み	ア 生産工程【〇〇生産、〇〇生産】      イ 分析と測定技術【〇〇分析、〇〇測定】				
	知識技術	生産の仕組みについて工業製品の製作を踏まえて理解しているとともに、工業に携わる者として必要な基礎的な技術を身に付けている。			
	思考判断表現	② 生産に関する技術と生産の過程における材料の分析や製作途中での測定に着目して、生産の仕組みに関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。			
	主体的態度	③ 生産の仕組みについて自ら学び、工業の発展を図ることに主体的かつ協働的に <b>取り組もうとしている。</b>			

## 観点別学習状況の評価の総括【参考資料】

観点別学習状況の評価への総括について、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術家庭」から総括の方法を例示する。各学校においては、生徒の実態に合わせた評価方法の作成が必要である。

### 評価の総括に向けての準備として

1. 評価方法の作成  
各学校においては、生徒の実態に合わせた評価方法の作成が必要となります。
2. 内規を含めた評価方法について  
各学校では、観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評価への総括の考え方や方法について、内規を含めた整理が必要です。
3. 学校組織における評価と共有化  
各学校においては、評価の内容や方法等について、教師間で共通理解を図るとともに、生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切です。

(1) 観点別学習状況の評価に係る記録の総括 <例 1><例 2>  
総括を行う際、観点別学習状況の評価に係る記録が、観点ごとに複数ある場合は、次のような方法が考えられる。

<例 1> 評価結果の A、B、C の数を基に総括する場合  
何回か行った評価結果の A B C の数が多いものが、その観点の学習の実施状況を最もよく表現していると  
する考え方に立つ総括の方法である。  
評価結果の A B C の数を基に総括する場合では、評価結果の A B C の数を目安として各観点の評価結果の  
数の多いものを総括した評価とする（表 <例 1>）。

<例 2> 評価結果の A、B、C を数値に置き換えて総括する場合  
評価結果の A B C を数値に置き換えて総括する場合では、評価結果の数値によって各観点を A = 3、B = 2、  
C = 1 と表し、合計や平均から総括する。

【表 事例における観点別学習状況の評価の結果例】

指導項目		評 価		
		知識・技術	思考・判断・表現	主体的な態度
学習内容① 学習活動に即した評価規準	評価計画①	B	B	B
	評価計画②	C	—	—
	評価計画③	A	—	—
学習内容② 学習活動に即した評価規準	評価計画④	B	B	B
	評価計画⑤	A	A	A
	評価計画⑥	—	A	—
	評価計画⑦	—	A	—
学習内容③ 学習活動に即した評価規準	評価計画⑧	B	A	B

<例 1> 数を基にした総括 評価結果の A B C の数多い もので総括	A	2	4	1
	B	3	2	3
	C	1	0	0
	総括評価	B	A	B

<例 2> 数値化による総括 評価の平均値と判断基準に より総括	A（3点）	6点＝3点×2個	12点＝3点×4個	3点＝3点×1個
	B（2点）	6点＝2点×3個	4点＝2点×2個	6点＝2点×3個
	C（1点）	1点＝1点×1個	0点＝1点×0個	0点＝1点×0個
	合計	13点	16点	9点
判断基準 C B A [1.5≦平均値≦2.5]	平均値	2.17＝13点÷6個	2.67＝16点÷6個	2.25＝9点÷4個
	総括評価	B	A	B

(2) 観点別学習状況の評価の総括における留意点  
<例 1> 評価結果の A、B、C の数を基に総括する場合  
評価結果が、「A B」のように同数の場合や「A B C」のように混在する場合も含めて、各観点の A  
B C の数の組み合わせから適切に評定することができるようあらかじめ決めておく必要がある。

<例 2> 評価結果の A、B、C を数値に置き換えて総括する場合  
評価における判断基準【C←1.5=(2+1)÷2, A←2.5=(2+3)÷2】はあらかじめ設定しておく必要がある。

(3) 観点別学習状況の評価に係る総括の例 <例3>  
<例3> 評価結果のA, B, Cを数値で表し、達成度で総括する場合  
評価結果のABCを数値に置き換え、各観点をA=3, B=2, C=1と表し、各観点の合計の割合（達成度）に応じて総括する。  
留意点として、各学校の実態に応じた判断基準を設ける必要がある。例えば、AとBが同数の場合の割合は約83%、BとCが同数の場合の割合は50%となる。評価の回数が増えても割合の変化はないので、「AとB」「BとC」の割合による基準の設定が必要である。

【例 事例における観点別学習状況の評価の結果例】

指導項目		評 価		
		知識・技術	思考・判断・表現	主体的な態度
学習内容① 学習活動に即した評価規準	評価計画①	B	B	B
	評価計画②	C	—	—
	評価計画③	A	—	—
学習内容② 学習活動に即した評価規準	評価計画④	B	B	B
	評価計画⑤	A	A	A
	評価計画⑥	—	A	—
	評価計画⑦	—	A	—
学習内容③ 学習活動に即した評価規準	評価計画⑧	B	A	B

<例3> 達成度による総括 評価の達成度と判断基準により総括	A（3点）	6点＝3点×2個	12点＝3点×4個	3点＝3点×1個
	B（2点）	6点＝2点×3個	4点＝2点×2個	6点＝2点×3個
	C（1点）	1点＝1点×1個	0点＝1点×0個	0点＝1点×0個
	合計	13点	16点	9点
判断基準 C            B            A [49%≦50%～82%≦83%]	最大点数	18点＝3点×6個	18点＝3点×6個	12点＝3点×4個
	達成度	72%＝13点÷18点	89%＝16点÷18点	75%＝9点÷12点
	総括評価	B	A	B